

外国人のみた日本 日本人の礼儀正しさ（カルチャー・ショック）

著者	Apichat Satitniramai, 梶山 貴史[訳]
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	147
ページ	51-51
発行年	2007-12
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005121

カルチャー・ショック

外国人のみた日本



Apichat Satitniramai

出身地：タイ・バンコク

所属：タマサート大学経済学部助教授

日本滞在：2007年4月～10月

日本人の礼儀正しさ

アピチャート・サーティツニラマイ

大学生のときからずっと、私は日本人の友人との交流が続けている。クラスメートとして、また学生活動の行事を通じて、タイや第三国で彼らに会う機会があった。彼らとは長い付き合いで、その友情をお互い大切にしてきた。私は日本人の少女が好きになってしまい、(その彼女と結婚し) 白人男の子を最近授かった。このような経験から、日本人をよく理解しているという錯覚が私にはあった。後に私は、客員研究員として六カ月間日本に滞在することになった。ところが、滞在最初の数週間、その錯覚はもろくも崩れ去ってしまった。

学生時代に私は、英国に数年間滞在したこともある。英国人に対し、礼儀正しさや歴史的建造物、自然等を重んじる人々との印象をもった。英国に滞在した最初の頃、英国人の友人を見つけることは、タイ人には時間がかかると思った。だが彼らは、良き友人を見つければ、生涯の友になり得ると私に言ってくれた。米国人とは違い、容易に友人になったり、容易に友情が壊れることはない、とも彼らは助言してくれた。但し、そのような比較だけでは、日本での私の滞在体験を語ることはできない。

日本人は英国人よりも、はるかに礼儀正しい。タイ人は気さくな人々として知られる国民である。そのためくだけた態度に慣れている人にとっては、日本に滞在する場合、度が過ぎる日本人の礼儀正しさに対応することは困難だ、と私は断言したい。

日本人の友人を見つたり、彼らに話しかけることは難しいとの不平不満を聞いてもらうため、日本に滞在してから数週間後に、私はバンコクの友人に電話をかけたことがあった。「日本人は社交的ではない。話しかけられるようになるためには、(一年、もしくはそれ以上といった) 長い期間を通して日本人を理解する必要がある」とその友人は私に言ってくれた。「ふーん。礼儀正しい面と孤立している面、日本人には両面があるのだろうか」と不思議に思った。だが、日本人の礼儀正しさは(外国人には礼儀正しさの程度がさらに高い?)、私には容易に馴染めるものではなかった。

運が良かったのか、私は喫煙者だ。私の出身地であるバンコクでは、社会的環境から一般庶民の間で喫煙はとがめられるが、日本ではそれほどとがめられるわけではなく、ここには多くの喫煙者がいる。タバコを吸っていたことで、友人を見つつけるきっかけができた。とても考えられないところで、友人を見つつけることができたのだ！勤務先では喫煙者は、指定場所でのみ喫煙

が許可されている。私はそこで何人かの喫煙者と知り合いになり、彼らと話をするようになった。体内のニコチン・レヴェルが高まる喫煙ルームで、私たちは一日に何度か会った。少しずつ会話をすることで、お互いを知りようになり、そして友人になることができた。

働く場では日本人は礼儀正しすぎるため、外国人は彼らに近づき難かった。しかし、私が最近旅行に行った北海道で、今までとは正反対の体験をした。富良野にある小さな居酒屋で、ある二人の日本人に出会った。この紳士たちははるかに開放的で、私の大好きな登山について彼らと語り合えた。私たちは一緒に飲んだり話をしたが、富良野岳の登山にその翌日私も連れて行ってもらえることとなった。彼らの招待に、もちろん熱狂的な態度で私は応じた。

下山後、彼らは私を車で札幌まで送ってくれた。彼らの親切心や親しみやすさに、何とお礼を言っって良いのか私は分からなかった。礼儀正しさと近づき難さとの関連性について、この体験を通して私の考えは変わったのか、と尋ねられるかもしれない。分らないけれども、日本人を理解しているという錯覚は、もはや私には存在しない。

(前海外客員研究員／訳＝梶山貴史)